拝啓　今年も早や2月下旬となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。横浜国際プールの下に、梅林があり、紅白の梅が満開に咲いておりました。。

今回は、小西芳之助先生の『エペソ人への手紙講解説教』からの引用の第9回目です。

今回のエンカウンターの第12頁「「わが主イエスよ」と呼びつつ、目の前のなすべきことをする」」には、次のように書かれています。

「「我が主イエスよ」とよびつつ、目の前のなすべきことをする

そういう罪人が許される方法は、イエス・キリストの贖いに頼るしか、一手しかない。その贖いを信ずるということが、これがまたわれわれは出来ない。難しい。そうですから、われわれはその手は、「わが主イエスよ」と主の名を呼ぶほか手が無い。……

要するに、「我が主イエスよ」と主の名を呼びつつ、毎日目の前に置かれたるなすべきこと、自分のなしたいことではなしに、毎日自分の目の前に置かれたなすべきことを主の名を呼びつつなして、そして又日曜日に来て、この信仰の告白というべきキリスト教道徳を聴いて、それをまた参考に分相応に、日々自分の行ないとしたいと思うのであります。」

小西先生は、「自分のなしたいことではなしに、毎日自分の目の前に置かれたなすべきことを主の名を呼びつつなせ」ということを勧められています。実行できるかどうか、出来るだけやってみることにしましょう。

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』2月13日

「他力か自力か

イエスいわく「汝の信仰汝を救う」（マタイ伝9章22節）それでは、私の救われるのは神の力ではなく、私の力であろうか。

我々はこの「汝の信仰」の意味を知らねばならない。これは、我々が我々の信仰によって救われるということを意味せず、ただ我々がイエスの十字架の贖いの力を受け入れることを意味する。

我々の側では、十字架の贖いの力をただ受け入れるだけであり、神の側では、「汝の信仰汝を救う」と言って下さる。

なんとたえなる神の愛よ。」

新渡戸稲造先生『一日一言』1月3日

「昨日結んだ紐の、今日早や緩むを見れば、明日は解けはせぬかと案じられる。最明寺時頼も、

いくたびか思い定めて変わるらん
頼むまじきは我が心なり

と詠じて、決心と実行との難きを嘆じたが、結んだ紐は、その日その日に新たに締め直せ

ば、固く締まって来る。」

松下幸之助先生『道をひらく』「日々是新」

「年の初めは元日で、一日の始めは朝起きたとき。年の始めがおめでたければ、朝起きたときも同じこと。毎朝、心があらたまれば、毎日がお正月。あらたまった心には、すべてのものが新しく、すべてのものがおめでたい。

きのうはきのう、きょうはきょう。きのうの苦労を今日まで持ち越すことはない。「一日の苦労は一日にて足れり」というように、きょうはまたきょうの運命がひらける。きのうの分まで背負ってはいられない。毎日が新しく、毎日が門出である。

日々是新たなれば、すなわち日々是好日。素直で謙虚で、しかも創意に富む人は、毎日が明るく、毎日が元気。」

内村鑑三先生『一日一生』2 月 5 日

「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世につかわされたのは、世を裁くためでなく、御子によってこの世が救われるためである。（ヨハネ伝 3・16－17）

キリストはなんのために世に下りたまいしかと問うに、新約聖書がこのことに関して言うところは明白である。すなわち彼の血（死）をもって人類の罪を贖うためである。そうして死して後に召天し、天の門戸を開いて、人の子に神の子となるための権能をを与えんがためである。これがキリストの降世の最大目的であって、その他のことは、この目的にに副うた余光である。人類の罪を贖い、彼の聖霊を罪に沈みし人の子の上に注がんための道をひらかんためには、彼の愛子をつかわして、世をしてこれを十字架につけつけしむるの必要があった。キリストの生涯を贖罪の生涯と見て、新約聖書は最も満足に解釈せらるるのである。」

バークレー先生『ウイリアム・バークレイの一日一章』（12 月 30 日）

「キリスト教の中心は復活である

復活がなかったなら、我々は十字架の話を知らなかっただろう。

復活がなかったら、十字架は一人の善人が悲劇的な死を遂げた、というだけのことである。その噂は、幾世紀を経て今日までつづいたかも知れない。が、それ以上のことはなかっただろう。いや、そんな噂はすぐに消えてしまったにちがいない。

われわれが十字架を知っているのは、復活があったからである。キリストをキリストたらしめているのは復活である。」

レテー・B・カウマン先生　『山頂を目指して』12 月 26 日

「素晴らしい助言者

わたしたちは人生航路において、助言を必要とする数えきれないほど多くの場合に直面する。そのようなとき、私たちは主イエス・キリストのみもとに行き、こういうべきである、「私の主よ、私は無知なものです。私は今どうすればよいのでしょうか。あなたは私の助言者であられます、私に、このような場合どうすればよいかを、はっきりと示して下さい。……待ちなさい！あなたが光を得るまで待っていなさい。」

妻山口和枝がなくなったのは 2023 年 2 月 3 日でありました。今年は、2 月 8 日（土）に 2 周年記念式を自宅で、桜美林大学チャプレンの薛恩峰先生の司式で執り行いました。友の会の方が 5 名来て下さったのですが、息子が一人しか参加してくれなかったので残念でした。

新型コロナについては、病院やクリニックではマスクをつけるように指導されていますが、インフルエンザと同時流行の気配もあり、電車の中とかスーパーでも、マスクをする人が再び多くなりました。外出された後の手洗い、うがいなどは、実行されて、コロナやインフルエンザにかからないように充分注意されるよう、祈り申し上げます。

2025 年 2 月 17 日　　山口周三

エンカウンターの読者各位